

平成 30 年度宮津市総合教育会議会議録

- 1 日 時 平成 31 年 2 月 15 日（金）午後 1 時 30 分～
- 2 場 所 宮津市福祉・教育総合プラザ（応接会議室）
- 3 出席委員 宮津市長 城崎雅文
宮津市教育委員会教育長 山本雅弘
宮津市教育員会教育長職務代理者 生駒正子
宮津市教育委員会教育委員 速石直美
宮津市教育委員会教育委員 田崎浩二
宮津市教育委員会教育委員 尾崎里花子
- 5 事務局 永濱教育次長 早川学校教育課長 河原社会教育課長、東文化振興課長
大槻総括指導主事 中村学校教育課参事 垣中学校教育課参事
河合学校教育課長補佐 吉田社会教育課長補佐 細見図書館長
- 6 開 会
- 7 議 題 ■宮津市の教育の充実に向けて
- 8 そ の 他
- 9 閉 会

（開会 午後 1 時 30 分）

永濱教育次長

定刻になりましたので、ただいまから、平成 30 年度宮津市総合教育会議を開会します。

開会に当たり、城崎雅文宮津市長がご挨拶申し上げます。

城崎市長

皆さんこんにちは。市長の城崎です。

本日は、御多用の中を御参集いただきまして誠にありがとうございます。教育委員会の皆様には、山本教育長を先頭に、宮津市の教育行政の推進に日々御尽力いただいております。重ねて感謝を申し上げます。

総合教育会議の開会にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

この総合教育会議は、市長である私と教育長、教育委員の皆さんとが一緒になって「教育のまち みやづ」の実現に向けて歩を進めていく上で重要な会議であります。

また、私は昨年7月に市長に就任して以来、大雨・台風災害からの復興、そして、厳しい財政状況が続く中で今後の行財政運営に見通しをつけることにあたってまいりましたが、市長立候補時にも申し上げましたように、「夢と希望があふれ住み続けられるまちづくり」に向けた5つのビジョンをしっかりと実現してまいりたいと考えております。

5つのビジョンの一つに、「ふるさとを大切にする教育のまちづくり」を掲げております。教育は、「地域社会にとって未来への希望、未来への投資」だと思っておりますし、明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、宮津ならではの教育を進めることで、ふるさと宮津に誇りや愛着が持てるまちづくりを進めていかなければならないと考えております。

私にとって初めての総合教育会議になりますが、本日の会議では、私の教育にかける思いも皆さんにしっかりとお伝えをしながら、本市の教育の質が向上していけるよう、皆さんと意見交換をさせていただきたいと思っておりますし、本日の議論を踏まえて「教育のまち みやづ」の実現、「ふるさとを大切にする教育のまちづくり」に御尽力を賜りますようお願いを申し上げ、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願い申し上げます。

永濱教育次長

市長ありがとうございました。
それでは議事に入らせていただきます。
市長に議事をお願いします。

城崎市長

それでは議事に入ります。
本日は、宮津市の教育の充実に向けて4つのテーマに基づき、意見交換を進めていきたいと考えております。
■一つ目のテーマとして「教育の質の向上と教育環境の充実に向けて」をテーマに意見交換を行いたいと思います。
この学校教育に係るテーマに関しましては、私もビジョンの中で掲げていますが、現在、本市が推進している就学前から10年間を見据えた小中一貫教育の推進や、ICT教育の推進などにより、教育の質を向上させ、教育環境を充実していくことが重要だと思っております、このことは教育の根幹であると考えております。
意見交換にあたって、事務局からこのテーマに係る現在の進捗状況の説明を簡潔にお願いします。

早川学校教育課長

- 教育の質の向上と教育環境の充実に向けて
- 【宮津市学力向上プラン(H30～H32)の進捗状況について】
- 宮津市学力向上プラン(平成30～32年度)(平成30年2月策定)に基づく取組
- ◆目標：質の高い学力の充実・向上
 - ◆具体の取組状況(主なもの)
 - ・基礎基本の徹底
 - 指導方法の工夫と授業改善
 - 算数・数学における学力サポートコーディネーターによる教科指導力の向上
 - ・言語活動を通じた表現力の育成
 - コミュニケーション力と論理的思考力の育成
 - 語彙力向上を目指す「漢字能力検定」の活用
 - 外国語活動・英語科の授業づくりとコミュニケーション力の向上
 - 英語力を高める「英語検定」の活用ほか
 - ・学習意欲の向上
 - 学ぶ楽しさや分かる喜びの実感
 - 家庭と連携した学習習慣の定着
 - 小中一貫教育による中学校教員による乗入授業の推進
- ※小中一貫教育カリキュラムの作成と活用
- ◆点検・評価(検証)
 - ・学力懇談会の実施(小中学校長との懇談による成果と課題検証)

【学校施設整備年次計画の進捗状況について】

○学校施設整備年次計画 [箇所付け]

◆H32 までに対応

- ・トイレ洋式化(宮津幼・栗田幼)
- ・エアコン設置(普通教室 100%整備)

◆H33 以降に対応

- ・非構造部耐震化(小中)
- ・トイレ洋式化(栗田小・吉津小・府中小・宮津中・栗田中)
- ・エアコン設置(特別教室 100%整備)

城崎市長

ただいま、学力向上プランや学校施設整備年次計画の進捗状況に係る説明がありましたが、宮津市教育振興計画や小中一貫教育推進基本計画に基づき、本市の小中学生の学力における状況と課題を踏まえ、いかに質の高い学力の充実・向上につなげていくか、そして、学力向上の取組を支える教育環境をいかに築いていくかが大事だと思いますが、皆さんの御意見を賜りたいと思います。

生駒教育長職務代理者

- 1 子どもの安全確保の観点から、耐震が 100%を達成したことは校長先生も喜んでおられると思う。
夏は暑いのでエアコン設置も今後順次進めていただきたい。
虐待等で福祉と教育の連携不足で子どもが亡くなるという報道が多い。本市は福祉・教育が一緒になって体制整備が整えられたことに喜んでいる。
- 2 加悦谷高校は合唱で有名であった。学校は名物先生に頼ることもよいが、学校の特色をつくるという認識で当時の校長時代は運営を行ってきた。そうした各学校の独自色も打ち出してもよいと考える。
- 3 小中学校を含め、英語活動を積極的にしているため、市の特色がはっきりとしてきたと感じている。

速石教育委員

委員に就任して十何年になる。この期間、教育は格段に進歩してきたと思っている。教育に対する投資をかなり配慮していただいていると痛感している。結果はどうであれ“教育のまち みやづ”に匹敵すると思っている。→直ぐではなくても実行していただきたい。これまで震災の被災地の学校を幾度か拝見したこともあり、学校そのものがいかに大事かを痛感した。
今後も手を緩めないであたっていただきたい。

田崎教育委員

我が子も小学6年生だが、先日、漢字検定を受検した。その中で、対象学年(子どもの発達)に見合った検定級を受験できる体制となっていることは大変うれしく思っている。また、英語教育については、英語教育推進教員にも英語を楽しく教えていただいている。昨年、京都市内の洛北中学校を視察した際、生徒達は授業時間中はオールイングリッシュで過ごしていた。これは大変素晴らしいことで、子どもたちの英語に対する慣れにも繋がる観点から、本市中学校でもオールイングリッシュで英語の授業を進めてもいいのではないかと感じた。

学習意欲の向上では、家庭と連携した学習習慣の定着など、親としても子どもへの声かけは大切なことだと思っており、親自身の意識改革も必要と感じている。

ふるさと宮津学では、6年生は森山先生とタッグを組み、学校

で北前船や天橋義塾など宮津らしさを打ち出した発表会を開催され、ふるさと学習として良い取組であったと感じた。

学校施設整備年次計画では、エアコン設置はありがたい。宮津中学校は冷水機4台を設置されているが、小学校でも1台程度設置が必要ではないかと感じている。

尾崎教育委員

私自身、昨年10月に教育委員に就任させていただいた。学校評議員時代にも中学校などへ行かせていただいた。

そうした中、最近の子どもは非常にまじめに授業を受けているというふうを感じている。中身もPCを使うなど、現代社会に通用する子どもを教えていると痛感した。また、子どもたちは誰にでも挨拶をする。これは日々の学校方針や挨拶運動の賜物だと思う。

図書館を訪れた際、大変きれいで来館者も多くおられ、非常に良いイメージがした。そうしたところを充実していただき大変ありがたい。学校現場にあっては、若い先生たちに活気があり、熱い思いを感じさせていただいた。先生たちの今後の活躍に期待したい。

一方で、若い先生におかれては、クラブ活動に関しては、一定の勉強を踏まえてから顧問をすれば良いのではと感じている。

山本教育長

学校教育に関しては、学力や教育環境など様々な状況がある中、力を入れていただいております。そうした期待に応えられるようにしなければならない。教育委員の皆様にも様々な御意見をいただいております。そうした部分にも応えていかなければならないと感じている。市長ともこうした意見交換を活発に行えるよう、今後このような場をさらに増やしていきたいと考えている。

生駒教育長職務代理者

宮津管内の学校の先生も忙しい。このため、スクールサポートスタッフの制度も取り入れながら、先生たちの負担軽減につなげていただきたい。

宮津市教育フォーラムの中で、4小連携学習の発表があったが、北部の学校に在籍する子どもたちは30人前後である。出生数も減少している。今後の人口構造を見た時、再編問題も重要であると感じている。そうした中、4小連携学習の取組を通して、子どもたちの豊かな教育環境とは何かを感じたところ。

今後の課題として、外国の親も増加している。私自身、現職時代はそうした保護者への具体の支援はできなかった。外国籍の母親への支援も視野に入れながら様々な施策も必要な時期に来ているのではと考えている。

城崎市長

スクールサポートスタッフに関して、事務局から何かあればお願いします。

早川学校教育課長

京都府の働き方改革の視点での制度であるが、本市でも昨年からは働き方改革を進めている。教育効果向上のため、子どもたち側の視点も見据えながら取組を進めているところであるが、将来的にはそうした京都府の制度も視野に入れながら進めていきたいと考えている。

城崎市長

教育の質の向上という部分で意見をいただいた。私自身、質の

高い学力の向上という部分で、幼稚園や保育所(園)など、就学前からの取組も大切になると考えている。家庭教育という部分では後のコミュニティスクールで深堀をしていきたい。

学校教育の環境面に関しては、予算との兼ね合いもあるが、しっかりと力を入れていきたい。

■二つ目のテーマとして「生涯にわたる豊かな学びにつなげるために」をテーマに意見交換を行いたいと思います。

この社会教育に係るテーマに関しましては、私もビジョンの中で掲げていますが、一昨年11月にこの宮津阪急ビルの福祉・教育総合プラザ内に新しい図書館を整備しましたが、その図書館機能の強化、公民館活動の充実やスポーツを通じた元気づくりにより、いかに生涯にわたる豊かな学びにつなげていくかということが重要であると考えております。意見交換にあたり、事務局からこのテーマに係る現在の進捗状況の説明を簡潔にお願いします。

河原社会教育課長

■生涯にわたる豊かな学びにつなげるために

【新図書館の利用状況等について】

○新図書館の利用状況等について(H30年中)

- ◆入館者数:149,395人 [目標値75,000人の2倍]
- ◆貸出人数:37,670人 [目標値40,000人に届かず]
- ◆貸出冊数:140,795冊

◆市民一人当たり図書貸出冊数:8.6冊 [目標値10冊に届かず]

※入館者数は多い反面、貸出者数が少ない、特に中高生の貸出人数が少ないことから、貸出冊数の増に向け平成31年度における取組を検討していく。

○宮津市立図書館の取組について

◆基本目標(H31の取組予定)

(1)学びと育ちを支える図書館

学校図書館支援の拡充、ナイトライブラリーほか

(2)市民の役に立つ図書館

講座開催、推薦図書リスト等の作成ほか

(3)市民が利用しやすい図書館

インターネット予約サービスの周知の拡充ほか

(4)出会いのある図書館

図書館サークルの募集・育成、来訪者や国内外の観光客が立ち寄る賑わいの場づくりほか

【地区公民館の整備等について】

○日置地区公民館移転改修事業

老朽化した日置地区公民館を旧日置中学校校舎に移転整備し、生涯学習及び住民活動の基盤整備を行うことにより、地域コミュニティ機能の活性化、地域振興を図るもの。

◆改修後の施設内容:1階に地区公民館、地区連絡所、避難所機能

◆拠点形成に向けた検討スケジュール

・H31.8:実施設計業務委託

・H32.4:改修工事発注

【第2期宮津市スポーツ推進計画(H30~H34)について】

○第2期宮津市スポーツ推進計画

- ◆基本理念：スポーツを通じた人とまちの元気づくり
- ◆基本目標：①ライフステージに応じたスポーツの推進
②多様なスポーツを支える環境の充実
③まちに夢と元気を与える競技スポーツの振興
④スポーツ交流によるまちの元気づくりの推進
- ◆新規事業：①市民のスポーツの習慣化を図るための取組「市民スポーツDAY」の実施

※本計画概要版を市民へ周知予定

城崎市長

図書館が新しくなり、入館者数・図書貸出冊数ともに実績があがっていることや、新たに旧日置中学校を活用して公民館の整備をしていくこと、今年度からスタートした第2期スポーツ推進計画と、社会教育における最新の動きに係る説明がありましたが、これらを今後どのようにして、生涯にわたる豊かな学びにつなげていくかが大事だと思いますが、皆さんの御意見を賜りたいと思います。

生駒教育長職務代理者

図書館は知のバロメーターでもある。新しくなり大変うれしく思っている。これまでの司書に加え、新しい司書も加わり、中身の面でもつながりや継続がなされうれしく思っている。

先日、規模は異なるが富山市の図書館へ行った。書架に寄贈書がたくさん配備されていた。本市の図書館でもそうした地元企業等の輪が広がってもよいと感じた。

細見図書館長

当図書館においては、既にスポンサー制度を取り入れている。今年度も何社からか登録をいただいたところ。冊数的にはまだまだ少ないため、今後も図書館のアピールを積極的に行いたいと考えている。

永濱教育次長

団体から図書等の寄贈はいただいている。先ほど館長が申したとおり、既にスポンサー制度として取り組んでいるが、現在は市内の主要な事業所のみにとどまっている状況。今後の広がりにつながるよう取り組みを進めていきたいと考えている。

生駒教育長職務代理者

市民の誰もが学び、集える知のバロメーターになればと考えている。

速石教育委員

スポーツで具体の計画が策定されたことは良いこと。施設面では他市と比べても充実している一方で、子ども側からすればスポーツに親しむこと、興味・関心を持つことが昔に比べて低くなっている。これは非常に残念に思っている。こうした計画を適切に実行され、子どもも含め、市民がスポーツを通して盛り上がり、健康やコミュニケーションの向上などにつながればと考えている。

田崎教育委員

私自身、受験生の子どもを抱えている。図書館については、帰宅するまで友達と一緒に利用しているので大変ありがたく思っている。日置地区公民館は良い使い方の見本になればと考えている。

スポーツの振興については、競技力向上や健康面など様々な目的があると考えている。大きな大会を誘致すれば大人の宿泊にもつながり、経済効果としてのメリットと同時に子どもも含め、住民も観戦できるなど盛り上がっていくと考えている。

尾崎教育委員

私自身感じていることは、市内で様々な大会が実施されているにも関わらず、知らない間に終わっていたということがあった。市民にも十分な周知をしていただきたい。また、田崎教育委員も言われたとおり、子どもたちにも本物に見る・触れる機会を提供することが大切だと感じている。また、競技者側からの意見を述べさせていただくと、若い選手達がもっと大会に参加できるよう市を挙げてバックアップしていただける体制をお願いしたい。本市は大変良い環境に恵まれており、まずはたくさんの方が歩くことからスタートできれば（スポーツがもっと身近になれば）と考えている。私自身も健康ウォーキングの講師を務めているが、そうした取組が市を挙げてできればと考えている。

山本教育長

新図書館が完成し、良い施設ができた。今後の課題として、学校教育を含め、関係機関といかにつながっていくかが大切である。図書館から遠方にある所に、どのようにアウトリーチをしていくかも重要な視点である。現代社会は様々な情報ツールがある一方で、子どもたち自身に何らかの形で本に触れさせていくことが大切。図書館としての恩恵や役割など新しい分野に取り組んでいくことも必要と思っている。

公民館は、人口減少時代における社会教育（建物のみでなく、人のつながりとして）の役割を考えていかなければならない。公民館としての役割は、館長、主事みの活動でなく、住民一人ひとりが活動を通じて醸成しなければならない。今後は学校教育とのつながりも重要であると考えられ、同時にこれからの大きな課題であるとも考えている。

生駒教育長職務代理者

変化を予測し、変化を想像、対応していくことが大切。

高齢者を孤立させてはならないと考えており、公民館活動＝社会教育はどうあるべきかをつくづく考えている。老人大学の会員は減少している一方で、老人人口は増加している。市民が集まったり楽しめたりできるような活動を社会教育の役割として期待している。

城崎市長

最近、私自身漠然とした不安を抱えている。スマートフォンでは月1,000円程度で120万冊程度の本が簡単に読める時代。一定期間後は自分が読んだ本と似通ったジャンルの本に関する案内が送られてくる。これは、興味のあるものだけの枠にはまってしまい、そこからの広がりにつながっていない。こうした状況を打破するという意味でも図書館としての役割も必要と考えている。

山本教育長

同感です。前尾記念文庫も内容が難しい本も多いが、自分の好み以外の図書に触れる環境も整っており、そうした機会も必要と考えている。いかに子どもたちに図書館に来ていただくかが重要である。

城崎市長

公民館としての役割も同様と考える。スポーツに関してもそうした豊かさを追求していくことも必要と考えている。

続いて、3つ目のテーマとして「ふるさと宮津への誇りや愛着の醸成に向けて」をテーマに意見交換を行いたいと思います。

この文化振興に係るテーマに関しましては、私もビジョンの中で掲げていますが、ふるさとを大切にすまちづくりを進めるために

は、重要文化的景観の保全・整備や文化・芸術活動の促進などにより、いかにふるさと宮津への誇りと愛着を醸成していくかということが重要であると考えております。意見交換にあたって、事務局からこのテーマに係る現在の進捗状況の説明を簡潔にお願いします。

東文化振興課長

■ふるさと宮津への誇りと愛着の醸成に向けて

【重要文化的景観の保護推進について】

○重要文化的景観の保護推進

◆普及啓発・調査事業の実施

・宮津地区の保存計画の作成

・普及啓発活動

・整備事業に係る基礎調査等の実施

◆「重要な構成要素」の修景整備事業補助

【市内の重要遺跡保全のための発掘調査事業について】

◆安国寺遺跡発掘調査

・古代～中世の「丹後府中」の繁栄を示す重要遺跡

・平成30年度に計31枚の銅銭が出土

・現地説明会及びパネル展示の開催

【歴史資料館の再開館に向けて】

◆経緯

・H14開館→H19休館→H26特別開館制度開始→H29再開検討

◆今後の方向性

必要最小限の経費により、早期開館を目指して調整を図る。

・学校教育や生涯学習の場として市民の歴史学習に資する拠点

・歴史文化を生かしたまちづくり推進のため、市民団体等が集い、情報共有や意見交換ができる場

・宮津の豊かな歴史や文化財の収集・保存・調査研究・活用を図る拠点ほか

[アンケート調査]

○再開館すべき：75% 条件による20.8%

城崎市長

たいだいま、府中・文珠地区が選定され、宮津地区の追加選定に向けて取組中の重要文化的景観の保護推進、現在実施中の府中の安国寺遺跡発掘調査や休館中の歴史資料館の再開館に向けた検討状況に係る説明がありましたが、これらの動きを今後どのようにして、ふるさと宮津への誇りと愛着の醸成につなげていくかが重要だと思いますが、皆さんの御意見を賜りたいと思います。

生駒教育長職務代理者

宮津は歴史的にもすばらしい町。徳島県の大塚美術館も多くの来館者で賑わっている。宮津も観光の目玉として“雪舟に出会える町”として、レプリカ版でいいので展示するなど、歴史のまちの打ち出しをしていただきたい。

速石教育委員

宮津から離れている人たちがふるさと宮津を感じる、離れている宮津を思い出す一つの手法として、私自身は本物を追及することが重要と考えている。例えば、府中地区(溝尻)の舟屋は昔からのたたずまいを残している。観光客のために作ってしまうと薄っぺらくなってしまいう可能性もある。宮津に誇るもの(本物)を整備してほしいと考えている。

田崎教育委員

私自身、教育委員に就任してから文化財について様々勉強させてもらっている。昔からある文化については、子どもたちにも学ばせていただきたいし、地域や観光客両方の方が楽しめる施設としていただきたい。

尾崎教育委員

淡路島の記念館を訪問した。当地は渦潮が有名であるが、館内には渦の発生のメカニズムを映像で流しており、すごい観光客だった。宣伝力を十分に活用することが大切であると感じた。

山本教育長

教育委員会として文化行政をどのように進めていくのが重要。保管・保存・継承は重要であり、民間ができるものでもない。行政として保存・継承をどのようにしていくのが大変重要。子どもたちが成長していく過程で、意図的な営みの教育だけではなく、自然に親しめる機会として、保存・継承・活用をどのようにつないでいくか、そうしたものに触れさせる機会を提供することが大切である。文化をいかに地域に根付かせていくのかを考えてみると、これは夢がどんどん広がっていく話であり、同時に地域も元気になっていく。そうした教育が実践できればと考えている。教育委員会としても文化行政を担っていくためには、どのように進めていかなければならないのか、また、そのためには人材の育成も必要であると考えている。

永濱教育次長

歴史資料館については、反省するところがある。資料館は2つの側面があり、一つ目は集客施設、二つ目は社会教育施設とし、これまで集客施設を全面に押し出してしまっていた傾向がある。市の歴史資源を見て、学べることが重要であり、そのためには人材育成も必要。何回も訪れていただく仕組みが必要であり、学習施設としてまちづくり、人づくりに寄与することが重要と考える。

東文化振興課長

歴史資料館については、特別開館した際、一日の利用者は25～30人程度であった。一方で館内で実施したコンサートでは70人程度と多かった。市民の中には歴史というものはあまり浸透していない感じを受けた。歴史資料館は教育施設としての意義を重視していきたい。子どもたちに本物に触れてもらい、見てもらい、こうした方向性を念頭に置きつつ、今後の再開館に向けた調整を図っていきたいと考えている。

城崎市長

私の実体験として、小学生時代に郷土クラブに所属していた。当時、府中地区を中心に有名な建物や史跡をめぐる活動をしていたが、子どもの頃何気に遊んだ所が改めてすごい所だったと感じたと同時に、将来的にふるさと愛につながっていくものだと実感したところ。先ほど教育長も話されたように、私自身も保存・継承が大事であると考えている。財政的な問題もあるが、しっかりと取り組んでいきたい。

最後に、4つ目のテーマとして「思いやりのある、夢や志あふれる国際感覚豊かな子どもの育成と地域と一体となって子ども達を育む学校づくり」をテーマに意見交換を行いたいと思います。このテーマに関しては、私もビジョンの中で掲げていますが、「宮

津の知恵」を大切にしたふるさと学習や英語教育の推進の充実などにより、思いやりのある、夢や志あふれる国際感覚豊かな子どもをいかにして育成していくか、そして、子ども達の育成のベースとなる学校において、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入することなどにより、地域と一体となって社会とともにある教育を実現し、宮津の将来を担う子ども達を育てていくのかということが重要であると考えております。

意見交換にあたって、事務局からこのテーマに係る現在の進捗状況の説明を簡潔にお願いします。

早川学校教育課長

■思いやりのある、夢や志あふれる国際感覚豊かな子どもの育成と地域と一体となって子ども達を育む学校づくりに向けて

【宮津市の小中一貫教育の推進状況について】

- ◆質の高い学力の充実・向上を目指した小中一貫教育の推進
 - ・宮津市教育振興計画 基本方針1「明日の宮津を創る子どもの育成」を目指す
 - ・小中一貫教育構想→学院(小中学校)と就学前施設の連携
 - ・10年間を見通した保育・教育課程(就学前・前期・中期・後期)
 - ・小中一貫教育の進め方
 - 栗田学院:H29 研究実践→H30 試行実施→H31 本格実施
 - 宮津学院:H29～30 研究実践→H31 試行実施→H32 本格実施
 - 4小学校(吉津・府中・日置・養老小):H30～小小連携
- ◆栗田学院(栗田小・栗田中)
 - ・教育目標
『未来を生きる心身ともにたくましい幼児・児童・生徒の育成』
 - ・取組
 - 学びのベーススタイル・・・小中学校が同じ授業スタイルで学習
 - 乗り入れ授業
 - 浜清掃、小1と年長児活動
 - 保護者、地域への発信、広報
- ◆宮津学院(宮津小・宮津中)
 - ・教育目標
『ふるさと宮津を愛し、心身ともに健康で「生きる力」を身に付けた幼児・児童・生徒の育成』
 - ・取組
 - 乗り入れ授業・・・中学校教員による小学校での授業
 - 合同挨拶運動、吹奏楽部演奏会、園児との合同避難訓練
- ◆4小学校連携(吉津小・府中小・日置小・養老小)
 - ・目的
橋立中学校に進学する宮津市立4小学校が小中一貫教育推進基本計画に基づき、めざす児童像の実現をめざして相互理解を深め、質の高い学力の充実・向上と、心身ともに健やかな子どもの育成を図る。
 - ・目標
『学力の向上とコミュニケーション能力の育成』
 - ・取組
 - 連携学習・・・4小学校同学年が一堂に会して行う学習活動

【宮津市の英語教育について】

- ◆背景
 - ・観光都市「宮津」の次代を担う国際感覚豊かな人材の育成

- ・2020年度からの大学入学共通テスト(英語)で求められる4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の育成
- ◆充実・強化に向けた取組・実践
 - ・幼児期からの英語活動:国際交流員(CIR)の就学前施設訪問
 - ・小学校での学習指導要領先行実施
 - ・専門性のある教員配置
 - ・宮津市教育委員会と京都府立宮津高等学校による「英語教育充実連携協働プロジェクト」

【コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入に向けて】

◆導入の経緯

- ・学校・家庭・地域の連携・協力により「開かれた学校づくり」を進めてきた宮津市として、学校と地域との結びつきをより強くし、これまで以上に地域と一体となって子ども達を育ていくため、地域の方がより当事者意識を持って学校運営に参画する仕組みとして導入するもの。
- ・「学校評議員制度」を早くに導入した本市
 - 宮津市では、現在、全ての小中学校、幼稚園において「学校評議員制度」を導入し、学校評議員が校長の求めに応じて学校運営に関して意見を述べるができる環境は整っているところ。

【きざき雅文のビジョン ふるさとを大切に(教育)のまちづくりから】

- ・コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の導入などにより、地域と一体となって子ども達を育て学校づくりを進めます。
- ・「学校評議員制度」と「学校運営協議会制度」の違いについて

○主な内容

[学校運営協議会制度]

- 1 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 2 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる

城崎市長

ただいま、小中一貫教育の平成32年度全面実施に併せ、学力向上の取組、特に英語教育において先行的な取組を行っていること、そして、コミュニティ・スクールの導入に向けての考え方に係る説明がありましたが、これらの動きを通じ、観光都市・宮津市として、いかに地域と一体となって、明日の宮津を担う国際感覚豊かな人づくりを進めていくかが大事だと思いますが、皆さんの御意見を賜りたいと思います。

生駒教育長職務代理者

学校も地域の人に支えられていないと運営はできません。こうした取組には大賛成です。過去は子ども達の見守り活動からスタートした。

速石教育委員

小中一貫教育については、最初は雲をつかむ感じだったが、以降徐々に形になってきたと感じている。同時に橋立中学校にも影響していくと考えられるため、成果として是非実績を示してほしい。

個人的に海外に行った際、英語が話せないはがゆさを実感した。そうした意味でも子どもたちには小学生からの英語教育に慣れ親しんでいただきたい。

田崎教育委員

小中一貫教育研究推進協議会では委員として市PTAで出席した

ことがあるが、中身は全く理解できていなかったが、徐々に理解させていただいている。

コミュニティ・スクールは全体で子ども達、学校を育てていく最終形である。保護者もしてくれて当たり前ではなく、それに対して保護者も家庭の中でしっかりと子どもと向き合うことが大切であると感じた。

尾崎教育委員

子どもたちが英語に親しむことは非常に大切であると考えている。まずは家庭環境はすごく大切であり、親としての重要性も学べる機会の場も大切と考えている。

山本教育長

地域とともにあるということは非常に重要であり、積極的に宮津の教育の中に取り入れていきたい。皆様のお知恵をいただきながら、宮津ならではのコミュニティ・スクールを実践させていただきたい。

小中一貫教育も今まで培ってきた経験を大切にしつつ、新しいものに創造していければいいと考えている。

教育が一つのまちづくりの手段になり得るくらいの気持ちを持って、宮津モデルになれるよう取り組んでいきたい。

城崎市長

小中一貫教育は、子どもたちが社会に出るときに生きていくための力になるものと理解している。コミュニティ・スクールと小中一貫教育はセットであるものと考えている。地域と一緒に取り組むということをお願いしながら今後の市政運営にあたっていきたい。また、今後は労働者で外国人が増えてくることが予想されるため、宮津らしいそうした対策も迫っていききたいと考えている。

ここまで4つのテーマに基づき、皆さんと意見交換を行ってきました。私は今の宮津市が厳しい財政状況等の中で、夢と希望があふれ住み続けられるまちづくりを進めるため、そして、未来の宮津のためには、やはり、「地域社会にとって未来への希望、未来への投資」である教育、人づくりは欠かすことができない重要なものであるということ、ここまでの意見交換を通じ、改めて確認をさせていただきました。

今後も市長である私と教育長、教育委員の皆さんとが一緒になって、「教育のまち みやづ」を実現し、ふるさとを大切にする教育のまちづくりを進めていけるよう、この総合教育会議で議論を深めていければと考えております。

明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、宮津ならではの教育を進めることで、ふるさと宮津に誇りや愛着が持てるまちづくりをしっかりと進めていきたいと思います。今後とも定期的に開催していければと考えております。

以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了したいと思います。長時間にわたり、ありがとうございました。

(閉会 午後4時10分)